



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

パレスチナの国民和解：ファタハとハマースが選挙管理内閣設置で合意

5月15日、ファタハ中央委員のアッサム・アフマドは、ファタハとハマースが、カイロで協議を行い、選挙管理内閣を3カ月以内に設置することで合意したと述べた。ハマース側からは、ムサー・アブー・マルズーク政治局次長が交渉に参加し、エジプト諜報機関当局者が仲介した。両者は、選挙法の作成の日程でも合意した。

ファタハとハマースは、2007年からの分裂状態を解消することでは合意しているが、合意の履行が遅れてきた。今回の合意の実施も遅れる可能性が高い。しかし、両者の国民和解に向けた動きは、2012年秋以降、ゆっくりであるが進展している。今回の合意が履行された場合、2007年から継続する西岸とガザの分裂状態を解消するための総選挙が実施される。合意の履行の進捗状況を判断する大きなポイントは、アッバース大統領が選挙管理内閣の首相ポストを兼任するかである。ファタハとハマースは、暫定内閣の首相にアッバース大統領が就任することで合意している。

#### 加速した国民和解の流れ

ファタハとハマースの国民融和の動きは、2012年秋以降、加速された。ハマースは、2012年11月のイスラエル軍との戦闘激化と停戦を軍事的な「勝利」だと主張した。PAは、11月末の国連でのオブザーバー国家資格取得を外交的な「勝利」だとした。両者は相手方の「勝利」を賞賛した。その結果、両者の関係は改善され、12月にはハマースが西岸で、2013年1月にはガザでファタハが組織の創設記念式典を開催した。2013年1月9日、アッバース大統領とハマースのミシュアル政治局長がカイロで約11カ月ぶりに会談し、国民和解の進展で合意した。パレスチナ選挙管理委員会は、2月11日から20日の間、ガザと東エルサレムを含む西岸で、有権者登録を実施した（結果の発表は4月10日）。

#### 4月以降の動き

米国のケリー国務長官は、4月7日に、ラマラを訪問してアッバース大統領と会談した。翌8日、ファタハ中央委員のアッサム・アフマドは、イスラエルのエルサレム・ポスト紙との会見で、米国側は、ファタハがハマースとの国民和解を進めることへの反対姿勢を弱めたと発言している。同8日、アッバース大統領はカタールで開催されたアラブ連盟のアラブ和平イニシアティブのフォローアップ会合に参加した。イスラエル側の報道では、カタールでアッ

バース大統領はミシュアル政治局長と会談する予定とされた。4月10日、ファイヤード首相は辞表を提出し、13日、アッバース大統領は同辞表を公式に受理した。2007年の西岸とガザ分裂の直後に任命されたファイヤード首相の正統性をハマースは認めていない。

4月18日、ガザのハニーヤ「首相」は、ミシュアル政治局長ら幹部との協議のためカタルを訪問した。同訪問では、国民和解について協議すると報道されていた。

### カタルとエジプトの仲介

エジプト治安機関が、ファタハとハマースの仲介役を果たしている。これはエジプトでの政変前も後も変わらない。今回の協議もカイロで行われた。カタルも、和解を支援している。カタルは、2012年以降、ガザ支援を強めている、2012年1月末、カタルのタミーム皇太子は、ミシュアル政治局長に付き添って、ヨルダンを訪問している。報道では、ハマースがダマスкас本部を閉鎖したのは2月とされる。ミシュアル政治局長は、その後、居住地をダマスкасからカタルに移した模様である。2012年10月23日、カタルのハマド首長は、外国の元首として初めて、ガザを訪問した。この際、カタルはガザへの経済支援を発表している。2013年5月9日には、カタルの宗教指導者ユーセフ・カルダーウィーがガザを訪問した。カルダーウィーは、歓迎式典の演説で、西岸とガザの分裂の解消を要請している。

### カタル・イスラエル関係

湾岸諸国の中で、カタルはきわだって親イスラエル政策を取る国である。90年代には、カタルにイスラエルの通商代表部が設置された。同代表部は、2001年11月にドーハでOIC首脳会議が開催される際に閉鎖された。カタル政府要人が、欧米など域外の国で、イスラエル政府要人と会談することは珍しくない。イスラエル政府首脳のカタル訪問も行われている。国際機関など第三者が行う会議に参加するためであるが、2007年1月ペレス副首相、2008年10月リブニ外相、2010年5月には、ベンエリエゼル産業商業相がカタルを訪問している。カタルのガザ支援をイスラエルが承認している背景として、元々両国が比較的良好な関係にある点を押さえておく必要がある。在外ハマースが、カタルを拠点とする限り、カタルとイスラエルの関係は無視できないだろう。

(中島主席研究員)